取り扱い説明書

ライトトラック専用モデル [LT609-Model]
ヘビートラック専用モデル [HT609-Model]

TP Checker
タイヤ空気圧・温度モニタリングシステム

Wireless Tire Pressure Monitoring System

タイヤ交換及びタイヤローテーション時には必ずお読み下さい

製品を取り付け後も、必ず車両に本書を携帯して下さい

http://www.tp-checker.jp

NOTICE（必ずお読み下さい）

ライトトラック・ヘビートラック専用モデル

http://www.tp-checker.jp

TPCheckerは車両のタイヤ内空気圧、タイヤ内温度を監視する機能を装備されています。
本システムを導入することによって、リアルタイムで各車輪の空気圧、タイヤ内温度を把握することができます。
本システムは車両走行中に空気圧、タイヤ内温度をドライバーに知らせることで、ドライバーに適正空気圧でのタイヤ管理を促し、燃費の悪化防止や安全走行の促進に繋げます。

■ 製品の適用範囲

TPCheckerライトトラックモデル(LT609)及びヘビートラックモデル(HT609)は、主に各種バスやトラック、建設用車両、牽引車両に適しています。本マニュアルは6輪車両をモデルに説明するものとなり、４輪車両の対応製品、マニュアルをお求めの場合は、各代理店又は弊社までご連絡ください。

■ EMC・FCC警告

TPCheckerはUSA FCC法規第15条基準に準じます。

(1)本製品は他の有害電波干渉で正常作動しない場合があります。
(2)不適正な操作により、システムが正しく作動しなくなる可能性があります。

TPCheckerはデジタルClassBの制約に準じ、この制約は干渉電波が住宅地区に発生することを防ぐためのものです。無線RF信号が発信する為、正確に取付・使用しないと、無線通信を妨害する電波が発生する恐れがあります。

※正確に施工しても100%干渉が起きないことを保証するのではありません
※本システム本体に不正改造がある場合、保証は受けられません。

■ 製品の警告表示

本システムはセンサーでタイヤ内部の圧力、温度を感知し、無線信号で送信します。
正常作動中、緑色の数字で空気圧、タイヤ内温度が表示されます。センサーが空気圧・温度の異常を感知すると、異常信号が車内に設置したモニターへ送信され、モニターが「ピ、ピ」の警告音と赤色の数字でドライバーに危険を知らせます。

＜警告＞
本システムは無線方式で交信するため、特殊電波環境下での混信、取り付け不良などにより本システムのが持つ性能を発揮できず、受信不能の原因となります。モニターが20分間断続的にホイールセンサー信号を受信できない状態が続くと、該当タイヤの表記が「E2」と表示されます。
この場合は、車両を現在位置から移動させ、（付近に強い電波干渉の恐れがあるため）、ご購入先にてセンサーの状況等の点検を受けてください（異常警告信号"ワーニング"を高頻度で送信するとセンサー内のバッテリーが通常より早く消耗することがあります）。モニターが20分以上継続的にタイヤから信号を受信できない場合は、モニター上全てのタイヤ数値が「E1」になります。
この場合は車両を現在位置から移動させ（付近に強い電波干渉が発生している恐れがあるため）、ご購入先にて点検を受けてください。

TPCheckerの取り付けは、メーカーの指定を受け製品講習を受講した専門店にて、本取り扱い説明書に記載される取り付け手順に従って作業を行って下さい。
また、上記の指定を受けていない販売店や工場が不適切な取り扱い・分解による製品の損傷は、保証対象外となります。
本システムは各種バス、トラック、建設用車両、牽引車両のタイヤに装着できます。
エア漏れを防ぐため、エアーバルブの定期検査、定期的な交換を強くお勧めします。

ＮＯＴＩＣＥ（必ずお読み下さい）

ライトトラック・ヘビートラック専用モデル

http://www.tp-checker.jp

■ システム警告方式

警告灯点灯や警告音が鳴った(ワーニング音)際は、速度を落し安全な場所に車両を停止させ、速やかにタイヤの点検をするか、お近くのガソリンスタンドやタイヤショップにてタイヤの点検・修復作業を行って下さい。

タイヤ空気圧不足(ロープレッシャー)になった際の警告は、ドライバーが任意に、又は工場出荷時に設定した空気圧ワーニングの設定数値を下回っていることを示します。
タイヤ内の温度が高温になった際の警告は、ドライバーが任意に、又は工場出荷時に設定した温度ワーニングの設定数値を上回っていることを示します。

■ ケミカル溶剤等の使用

パンク修理剤や同様のケミカル溶剤は、TPCheckerのセンサーを破損するだけではなく、誤作動を起こす可能性がありますので、ご注意下さい。

■ イモビライザー

純正装着されているイモビライザー以外に、アフターパーツメーカー等のイモビライザーや電波を発信するアイテムの装着は、本製品の無線交信を妨害する可能性があり、受信不良や受信不能の原因となる可能性があります。
イモビライザーを追加する際、本製品の通信を妨害することを避けるため、純正品かFCC/NCC等の認証がある製品を使用してください。

■ アマチュア無線の使用

アマチュア無線は本製品を妨害する可能性があり、システム受信不良や受信不能の原因となります。
アマチュア無線を使用する際、449.775MHZ±10kHzの周波数帯域を避けてご使用下さい。

製品に付きまして、何かご不明な点などございましたら、お買い求め頂きました販売店及びメーカーへお問い合わせ下さい。

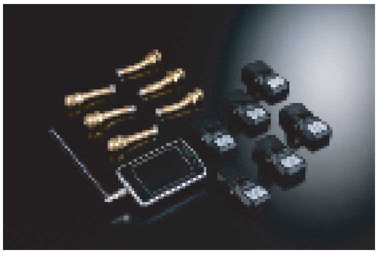
■ Transmitter Specifications	
バッテリー寿命（センサー）	一般的な使用頻度で約3〜5年間
保管温度	-40℃〜125℃
動作温度	-30℃〜120℃（動作湿度：MAX95%）
周波数	449.775MHz（特定小電力無線設備認証取得済み）±10kHz
測定圧力範囲	0〜1170kPa/0〜140brr
測定圧力誤差範囲	±20kPa
測定温度範囲	-40℃〜125℃
測定温度誤差範囲	±4℃（一般正常環境温度）
センサー監視頻度	3秒（モニター表示は30秒毎に1回）/HT609は60秒毎に1回）
バッテリー電圧	3.6V/500mA
センサー重量	30g（±2g）
センサーサイズ	63mm×33.5mm×19mm（バルブ部分は含まれません）

■ Receiver Specifications	LT609	HT609
作動電圧	9V〜30V	20V〜30V
周波数帯	449.775MHz	449.775MHz
保管温度	-40℃〜90℃	-40℃〜90℃
動作温度	-30℃〜85℃（動作湿度：MAX85%）	-30℃〜85℃（動作湿度：MAX85%）
表示空気圧範囲	0〜800kPa	0〜14.0bar
表示温度範囲	-40℃〜125℃	-40℃〜125℃
低空気圧警告設定範囲	280〜380 /（初期設定値330kPa）	5.9bar〜7.9bar /（初期設定値6.9bar）
高空気圧警告設定範囲	520〜720 /（初期設定値620kPa）	9.3bar〜11.3bar /（初期設定値10.3bar）
温度警告設定範囲	60℃〜100℃（初期設定値80℃）	60℃〜100℃（初期設定値80℃）

※製品仕様は予告無く変更される場合があります

■ TPChecker　システムパッケージリスト

◆ アイテム名	数量
A モニター(無線受信回路内蔵)	1
C 電源ケーブル（プラグ形式は商品現物に準ずる）	1
D センサー	6
E エアーバルブ (PVR181 or 119) LT-model	6
E エアーバルブ (V3-20-4) HT-model	6
F 専用スクリュー	7
G システムマニュアル	1
H アンテナ(LT-model) or アンテナケーブル(HT-model)	1



※LT609のキット構成のイメージになります

■ TPChekerの取付方法

以下に、TPChecker LT609/HT609モデルを車両に装着する手順を記載しております。
本書の手順通りに正しく取り付け作業を行い、安全に本製品をお使い下さい。

■ モニターと電源ケーブルの取り付け方法

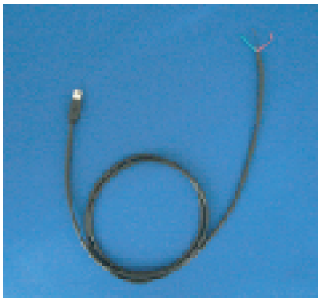
1. モニターを両面テープでドライバーが視認しやすい場所へ取り付けてください。

2. 電源ケーブルの赤線を車両側VCCつなぎ、緑線をACCにつなぎ、黒線をヒューズボックスにつなぎます。（右記図を参照）

※ 右記図の様に配線を行うと、モニターは常にセンサーデータを受信します。
モニターのLEDはACCをオンにすれば電源が入り、オフにすればモニター電源が切れます。

3. セットアップが完了しましたら、モニターに貼ってあるプロテクションフィルムを剥がして製品をご使用下さい。

■ 電源ケーブルの配線方法
レッド　VCC
グリーン　ACC
ブラック　ヒューズBOX（アース）

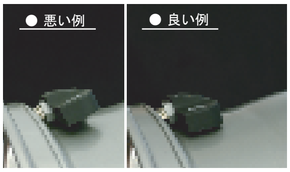


※本書に記載しております空気圧デモ表記は、全てライトトラック(LT609)モデルになります。
ヘビートラック(HT609)モデルは、空気圧表記がbar表記となります。（空気圧表記の説明は14ページをご参照下さい）

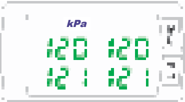
ライトトラック・ヘビートラック専用モデル

■ センサー取り付け

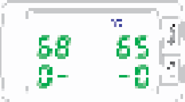
1. ホイールを車両から外し、ホイールからタイヤを外して下さい。
2. センサー番号確認し、組み込むホイールにセンサーナンバーのマークを付けて下さい。
3. ホイールバルブを外し、バルブホールを清掃します。
4. TP Checker専用バルブとセンサーをホイールに取り付けます。
（センサーの番号とタイヤ＆ホイールの番号を必ず合わせて下さい）
5. センサーをホイールに装着する際に、ホイール面と平行になるように角度を入念に調整して取り付けを行って下さい。（右記画像を参照）
ホイールとセンサーの隙間が10mm以上空く場合は、両面テープ等をスペーサー代わりに使用し、隙間を埋めて下さい。
6. センサーの角度が決まりましたら、センサー取り付けスクリューを締め付けます。
この際、スクリューには必ずネジロック剤が塗布されている事を確認して下さい。
ネジロック剤がセンサー取り付けスクリューに塗布されていない場合は、必ず塗布してから取り付け作業を行って下さい。
8. センサーの取り付けが終了しましたら、タイヤを組み直し空気を充填します。
タイヤ組み込み作業中に、センサーへタイヤを引っ掛けたり衝撃による破損に注意して作業を行って下さい）
9. 全タイヤのバランス調整を行います。
10. タイヤを車両に取付けます。
一番最初の工程でホイールに付けたセンサーナンバーを参照し、右記センサー配置図の通りに車両へ取り付けます。

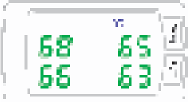


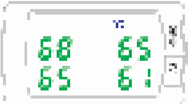
■ 正常時のモニター表示画面

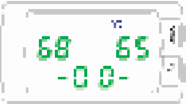

図(9)空気圧表示画面

圧力が表示されるとき右下の『P / T』ボタンを押すと，モニターの表示はタイヤ温度画面に切り替わり、もう一度『P / T』を押すと，空気圧と温度を交互に表示します。再度『P / T』ボタンを押しますと、空気圧の表示画面に戻ります。


図(10) 前輪温度

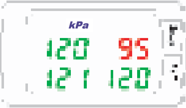

図(11) 前輪及び外側後輪温度


図(13) 前輪及び内側後輪温度

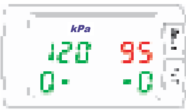

図(12) 前輪温度

■ TPCheckerモニターの異常警告（ワーニングの説明）

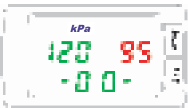
本製品は3種類の異常警告(ワーニング)モードを搭載しています。
タイヤの空気圧低下、タイヤの空気圧超過、タイヤの温度超過。それぞれ下記の設定になっています.



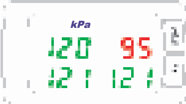
図(15)画面継続時間1秒



図(16)画面継続時間1秒



図(18)画面継続時間1秒



図(17)画面継続時間1秒

■ タイヤの空気圧低下

出荷時の設定はライトトラック用330kPa、ヘビートラック用6.9barに設定されています。装着する車両によってライトトラック用では280kPa～380kPa、ヘビートラック用では5.9bar～7.9barに調整することができ、圧力が設定値より低くなった場合に、モニターは"ピッピ"と警告音と赤色の空気圧表示で異常のタイヤをお知らせします。

■ タイヤの空気圧超過

出荷時の設定はライトトラック用で620kPa、ヘビートラック用で10.3barになっています。装着する車両によってライトトラック用で520kPa～720kPa、ヘビートラック用で9.3bar～11.3barに調整することができ、圧力が設定値より高くなった場合に、モニターは「ピッピ」と警告音と赤色の空気圧表示で異常のタイヤをお知らせします。

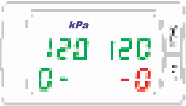
■ タイヤ温度超過

出荷時の設定は80℃, タイヤの種類や荷重によって設定値を調整することができ、温度が設定値より高くなる際、モニターは「ピッピ」警告音と赤色のタイヤ圧力表示で異常のタイヤをお知らせします。

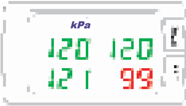
380kPaを低圧警告値に設定した場合、システムが380kPaより低い空気圧信号を受信すると、モニターが警告音を鳴らし、空気圧が正常に回復するまで持続します。

1. 右前輪異常の例
No1(右前輪)空気圧異常の際、モニター画面が図(15)～図(18)のような流れで表示され、警告音が鳴ります。
ほかのタイヤの圧力異常や温度超過などの異常も類似画面が表示されます。

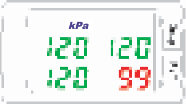
2. 右外側後輪異常の例
No2(右外側後輪)空気圧異常の際、モニタ一画面が図(19)～図(22)のような流れで表示され、警告音が鳴ります。ほか、4本の後輪のうち1本異常になる際も類似画面が表示されます。



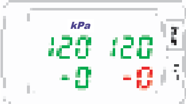
図(19)画面継続時間1秒



図(20)画面継続時間1秒

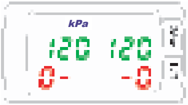


図(22)画面継続時間1秒

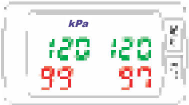


図(21)画面継続時間1秒

■ TPCheckerモニターの異常警告(ワーニングの説明)



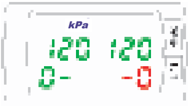
図(23)画面継続時間1秒



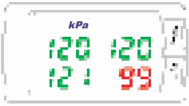
図(24)画面継続時間1秒

■ 右外側後輪と左外側後輪同時異常の例

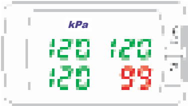
No2（右外側後輪）No5（左外側後輪）空気圧同時異常の際、モニター画面が図（23）～図（24）のような流れで表示され、警告音が鳴ります。4本の後輪の内、左右各1本が異常の際も、類似画面が表示されます。



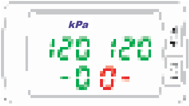
図(15)画面継続時間1秒



図(16)画面継続時間1秒



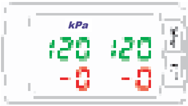
図(15)画面継続時間1秒



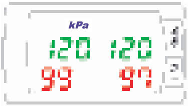
図(16)画面継続時間1秒

■ 右外側後輪と右内側後輪同時異常の例

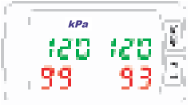
No2（右外側後輪）No3（右内側後輪）空気圧同時異常の際、モニター画面が図（25）～図（28）のような流れで表示され、警告音が鳴ります。
No4（左内側後輪）No5（左外側後輪）が異常の際も、類似画面が表示されます。



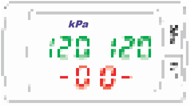
図(29)画面継続時間1秒



図(30)画面継続時間1秒



図(32)画面継続時間1秒

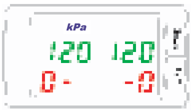


図(31)画面継続時間1秒

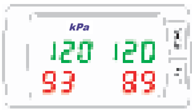
■ 右外側後輪、右内側後輪、左内側後輪同時異常の例

No2（右外側後輪）No3（右内側後輪）No4（左内側後輪）空気圧同時異常の際、モニター画面が図（29）～図（32）のような流れで表示され、警告音が鳴ります。4本後輪の内他の3本が異常の際も、類似画面が表示されます。

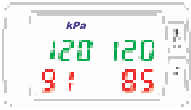
■ TPCheckerモニターの異常警告（ワーニングの説明）



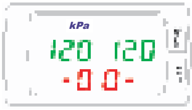
図(33)画面継続時間1秒



図(34)画面継続時間1秒



図(36)画面継続時間1秒

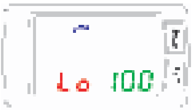


図(35)画面継続時間1秒

■ 後輪4本全て異常の例
後輪全て空気圧異常の際、モニター画面が図（33）～図（36）のような流れで表示され、警告音が鳴ります。この例で、前輪正常のためNo1（右前輪）No6（左前輪）の表示は変わりません。

■ 警告
「エアーバルブ」「スクリュー」は消耗品のため、保証範囲外となります。
タイヤ交換、センサー交換、センサー再取り付けの際、必ず新品の「エアーバルブと「センサー取り付けスクリューを使用して下さい。
エア漏れ防止のため、毎年定期的に「エアーバルブ」を点検、交換する事を強くお勧めします。

■ モニター警告値(ワーニング)の設定方法



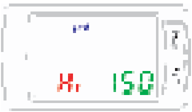
図（37）
ロープレッシャーモードの表示画面

本製品は3種類の異常警告(ワーニング)モードが搭載されています。

1.空気圧低下（ロープレッシャーワーニングモード）
2.空気圧超過（ハイプレッシャーワーニングモード）
3.タイヤ内温度超過（ハイテンプワーニングモード）

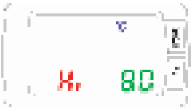
1～3は使用状況によって下記の調整方法で設定可能となります。

◆ ロープレッシャーワーニングモード
出荷時の設定はライトトラック用で330kPa、ヘビートラック用で6.9barに設定されています。タイヤの種類や荷重によってライトトラック用で280kPa～380kPa,ヘビートラック用で5.9bar～7.9barに調整可能。通常表示画面モードでSet upボタンを3秒間押し続け、モニターから「ピッ」と鳴ったらボタンを離し、ロープレッシャーワーニングモードの表示画面になります（図37）。現在設定されているロープレッシャー数値が表示され、「P/T」ボタンで数値を変更します（「P/T」ボタンを押すことでライトトラック用で280kPa～380kPa,ヘビートラック用で5.9bar～7.9barの間で循環）、調整終了の際、「Set up」ボタンを押し、「ピッ」と鳴ったら、ロープレッシャーワーニング数値の設定が完了し、自動的にハイプレッシャーワーニングモードの設定画面に移ります。



図（38）
ハイプレッシャーワーニングモード画面

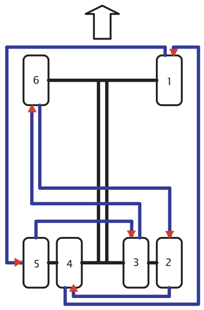
◆ ハイプレッシャーワーニングモード
出荷時の設定はライトトラック用で620kPa、ヘビートラック用で10.3barに設定されています。
ロープレッシャーワーニングモード終了後、自動的にハイプレッシャーワーニングモードになります（図38）。
現在設定されているハイプレッシャーワーニング数値が表示され、「P/T」ボタンで数値を変更します（「P/T」ボタンを押すことでライトトラック用は520kPa～720kPa、ヘビートラック用は9.3bar～11.3barの間で循環）、調整終了の際、「Set up]ボタンを押し、「ピッ」と鳴ったらハイプレッシャーワーニング数値の設定が完了し、自動的にハイテンプワーニングモード画面に移ります。



図（39）
ハイテンプワーニングモード画面

◆ ハイテンプワーニングモード
出荷時の設定は80℃。ハイプレッシャーワーニング数値を設定終了後自動的にハイテンプワーニングモード画面になります（図39）。現在設定されているハイテンプワーニングモードが表示され、「P/T」ボタンで数値を変更し、調整終了の際、「Setup」ボタンを押し、「ピッ」と鳴ったら、ハイテンプワーニングモードの設定が完了し、自動的に正常表示画面に移ります。

■ タイヤローテーション及びセンサー交換手順

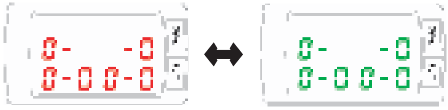


図（40）メーカー推奨のローテーション方式

本製品は3種類のタイヤローテーションモードを内蔵しています。
車両メーカー推奨ローテーションモードー（モード1）、任意位置配置モードー（モード2）単一センサー交換モードー（モード3）。それぞれ下記の方法で行います。

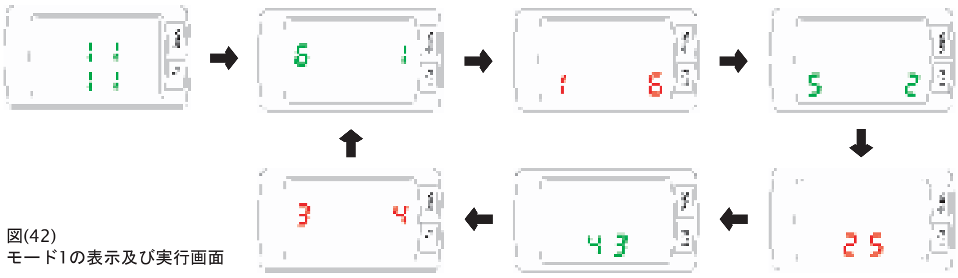
モード1（車両メーカーの推奨方式）
左の図（40）のようなローテーションをすることをお勧めします。
メーカーの推奨方式でもあり、本システムの設定が簡単にできます。

◆ 操作方法
1. 6本のタイヤを図（40）の方式でローテーションします。
　順番を間違いないよう、タイヤにマークをつけます。

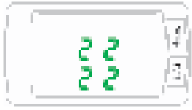


図(41)両ボタンを同時に長押しすると、数字が赤と緑に点滅

2..モニターの「Setup」ボタンを押しながら「「P/T」」ボタンを3秒間、長押しします。
モニターの表示画面が赤、緑交互点滅し（図41）、さらにボタンを押し続け、5秒後モニターが「ピッ」と鳴ったら、モード1（メーカー推奨ローテーションモード）になり（図42　）「1」が表示されます。



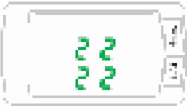
図(42)
モード1の表示及び実行画面



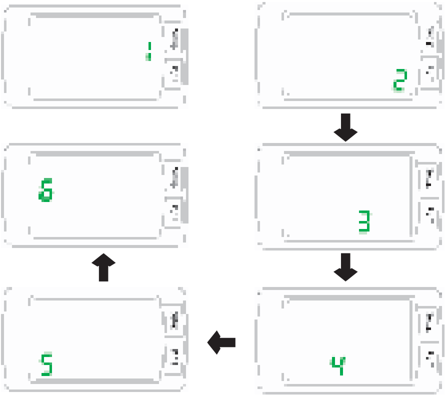
図（43）モード2の表示画面

3.モード1のローテーションを実行したい場合、「Setup」ボタンを約1秒間押し続け、「ピッ」と鳴りましたらボタンを放して、センサーのローテーション設定が完了し、画面が正常モードに戻ります。
モード1を実行しない場合、「「P/T」」ボタンを押して、モード2の表示画面になり、「2」が表示されます。（図43）

■ タイヤローテーション及びセンサー交換手順



図（43）モード2の表示画面



図（44）モード2の実行画面

7.左前輪の空気を警告表示するまで空気を抜きます。
警告表示完了後、モニターが「ピッ」と鳴ります。そして左前輪の空気を正常値まで加圧し、No6の正常圧力信号受信後、設定が完了し、正常表示モードに戻ります。

8. モード2を実行中中断したい場合、モード2の状態で「P/T」ボタンを押すと、強制終了し、モード3になります（図45）。

モード2（ランダムローテーションモード）：
タイヤを任意位置に配置したい場合や、タイヤ、センサーの位置が間違えた時に便利なモードです。このモードでセンサー位置の再認識が可能です。

◆ 操作方法（モード1の2-3）
1. 上記方法でランダムローテーションモードに入り、モード2の表示画面（図43）になります。約2秒後「ピッ」と鳴って、モニター画面がNo1の位置に「1」となり、No1のセンサー設定待機状態になります。（モード2を実行しない場合、「P/T」ボタンを押して、モード3になります）

2. No1（右前輪）のセンサーを設定する場合、モニターが上記No1の設定画面になった時、右前輪の空気を警告表示するまで抜きます。
警告表示完了後、モニターが「ピッ」と鳴ります。
そして右前輪の空気圧を標準値に戻し、右前輪の正常空気圧信号受信後、モニター画面が右外側後輪の位置に「2」が表示され、No2のセンサー設定待機状態になります。

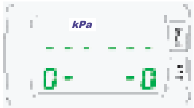
3. 右外側後輪の空気を警告表示を受信するまで空気を抜きます。
警告表示完了後、モニターが「ピッ」と鳴ります。そして右外側後輪の空気を正常値まで加圧し、右外側後輪の正常圧力信号受信後、モニターにNo3（右内側後輪）の位置に「3」が表示され、No3センサーの設定待機状態になります。

4. 右内側後輪の空気圧を警告表示するまで空気を抜きます。
警告表示完了後、モニターが「ピッ」と鳴ります。そして右内側後輪の空気を正常値まで加圧し、No3の正常圧力信号受信後、モニターにNo4（左内側後輪）の位置に「4」が表示され、No4センサーの設定待機状態になります。

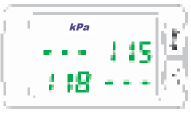
5.左内側後輪の空気を警告表示するまで空気を抜きます。
警告表示完了後モニターが「ピッ」と鳴ります。そして左内側後輪の空気を正常値まで加圧し、No4の正常圧力信号受信後、モニターにNo5（左外側後輪）の位置に「5」が表示され、No5センサーの設定待機状態になります。

6. 右外側後輪の空気を警告表示するまで空気を抜きます。
警告表示完了後モニターが「ピッ」と鳴ります。そして左外側後輪の空気を正常値まで加圧し、No5の正常圧力信号受信後、モニターにNo6（左前輪）の位置に「6」が表示され、No6センサーの設定待機状態になります。

■ 正常時のモニター表示画面

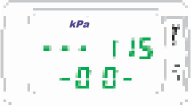


図(1)画面継続時間2秒

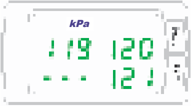


図(2)画面継続時間13秒

■ モニターに電源を入れた後、図(1)のような画面が表示されます。
左下の『0-』：センサーNo5（左外側後輪）の空気圧数値表示待機中
右下の『-0』：センサーNo2（右外側後輪）の空気圧数値表示待機中
画面が2秒間持続後、図(2)のような画面（受信例）が表示されます
右上の『115』：センサーNo1（右前輪）の空気圧数値
左上の『---』：センサーNo6（左前輪）空気圧の数値未受信
左下の『118』：センサーNo5（左外側後輪）の空気圧数値
右下の『---』：センサーNo2（右外側後輪）の空気圧の数値未受信
受信しない状態が続く場合(20分以上)は近くに電波障害の可能性が考えられますので、その場から車両を移動し、再度センサーが認識するかを確認して下さい。



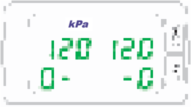
図(3)画面継続時間2秒



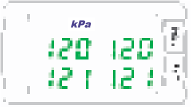
図(4)画面継続時間13秒

■ 図(2)の画面は13秒継続し、その間にセンサーNo6（左前輪）あるいはセンサーNo2（右側外側後輪）のタイヤ圧力信号が受信されれば、それらのデータが表示され、その後図(3)のような表示画面になります（例）

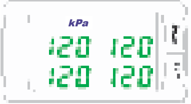
図(3)左下の『-0』：センサーNo4（左内側後輪）の空気圧数値待機中
図(3)右下の『0-』：センサーNo3（右内側後輪）の空気圧数値待機中
画面が2秒間継続後、図(4)のような画面（受信例）が表示されます。
右上の『120』：センサーNo1（右前輪）の空気圧数値
左上の『119』：センサーNo6（左前輪）空気圧数値
右下の『121』：センサーNo3（右内側後輪）の空気圧数値
左下の『---』：センサーNo4（左内側後輪）の空気圧数値未受信



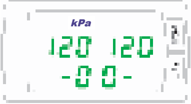
図(5)画面継続時間2秒



図(6)画面継続時間13秒



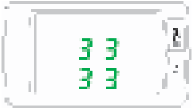
図(8)画面継続時間13秒



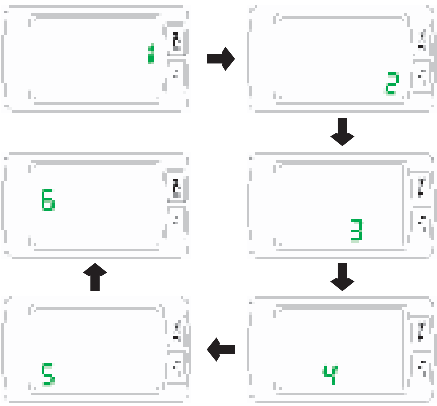
図(7)画面継続時間2秒

■ 図(4)の画面は13秒継続し、その間にNo4（左内側後輪）の空気圧信号が受信されれば、そのデータが表示されます。
6輪全ての空気圧データが受信されると、左記図(5)〜図(8)のような流れ（受信例）で画面が順番に表示されます。
図(1)〜図(8)の流れはタイヤ温度の表示も同じ。
但し『 kPa 』のマークは『 ℃ 』になります。

■ タイヤローテーション及びセンサー交換手順（単一センサー交換モード）



図(45) モード3の表示画面



図（46）モード3の実行画面

モード3（単一センサー交換モード）：
あるタイヤのセンサーが故障のため交換が必要な時、モード3（単一センサー交換モード）で該当センサー位置の再学習ができます。

操作方法：
1. 既述の操作方法でモード3（単一センサー交換モード）にし（図45）、約2秒後モニターが「ピッ」を鳴り、画面にNo1（右前輪）の位置に「1」が表示され、No1センサーの設定待機状態になります。(図46)
「Setup」ボタンを押すと、No2（右外側後輪）の位置に「2」が表示され、No2センサーの設定待機状態になります。同様に「Setup」ボタンを押すことでNo3センサー、No4センサーの順でセンサーのポジションが切替ります。 (図46)

2.設定したいセンサーの設定画面に切替え、該当タイヤの空気を警告表示するまで空気圧を抜きます。
警告表示受信後、モニターが「ピッ」と鳴り、タイヤの空気を正常値に加圧して、新しいセンサーの設定が終了し、自動的に正常表示モードに戻ります。

3. モード3の状態で中断したい場合、「P/T」ボタンを押すと、強制終了となり、正常表示モードに戻ります。

■ 表記及び用語の説明

kPa タイヤ圧力単位	1Pascalは1平方メートル(m2)の面積につき1ニュートン(N)の力が作用する圧力
bar タイヤ圧力単位	1bar=100kPa
℃ セルシウス温度単位	
タイヤ加圧環境温度	気温25℃でメーカー指定の空気圧に設定することをお勧めします
モニター(Monitor)	無線電波受信回路、表示回路、警告用ブザーを内蔵
センサー(Sensor)	タイヤ内部に取付け、タイヤの圧力と温度をRF信号でモニターに送信します

■ システムの保証

本製品は取り付け日（本書記載の購入日より）から1年間のメーカー保証が付属されています。
保証期間中、取扱説明書・注意書きに従った正常な使用状態で不良・故障した場合には、本保証規定の記載内容に基づき、同等品への交換若しくは修理を致します。（但し、交換時に発生した工賃は対象外）
保証期間の認定は購入された際の領収書、又はj本書に取り付け日が明記され、販売店印のある製品保証カードに準じます。（購入日の記入若しくは販売店の記入が無いものは、原則として保証対象外とします）
保証期間の最終日が日曜・祝日の際は、その次の日を最終日とします。

■ 保証適応外(保証書をご提示いただきましても、次の場合は有料となります）
1. 取り付け日から保証期間が経過した又は保証期間を証明できない場合。
2. 取扱説明書に記載の使用方法または注意に反するお取扱に起因する故障もしくは損傷。
3. 火災、地震、水害、落雷、台風、塩害、その他天災地変、公害等の不可抗力による損傷、人為的破壊（擦り削り、ヒンジ割れ、破裂、衝撃など）、不注意（紛失、不当な保管）、分解、改造等による故障。
4. 弊社認可外の部品を用いたりお客様ご自身又は、第三者による設置、追加、改造、修理による損傷。
5. 定期的交換が必要とする消耗品。

■ 重要事項
1. 上記保証規定を書面、ホームページでの修正、説明、解釈の権利が弊社に帰属します。
2. 本製品のご購入、使用に起因する付随的、又は間接的損害及び本規定を反する行為による財産、人身の損害に対して当方では責任を負いかねます。
3. 本製品は車両のタイヤ空気圧・音頭を監視することを補助するシステムであり、お客様のタイヤの状況の点検、法規、車両メーカーの規定に基づいた定期点検を代替するものではありません。
4. 「エアーバルブ」「専用スクリュー」は消耗品であり、本システムの保証対象外となります。タイヤ交換、センサーの交換、再取付けの際、必ず新品の「エアーバルブ」「専用スクリュー」をご使用ください。
5. エア漏れ防止のため、毎年定期的に「エアバルブ」を点検、交換することを強くお勧めします。

トラブルシューティング（必ずお読み下さい）

ライトトラック・ヘビートラック専用モデル

http://www.tp-checker.jp

◆ モニター電源を入れても表示が出ない	
電源ケーブルとモニターのソケット接触不良	電源ケーブルを一旦抜き、再度奥くまで差し込んでください
電源ケーブルとシガーソケットの接触不良	電源ケーブルを一旦抜き、再度奥くまで差し込んでください
電源ケーブル故障	電源ケーブルを交換し、製造元へ返送してください
モニター内部ヒューズ切れ	モニターを交換し、モード2のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターを製造元に返送してください
◆ モニター表示部の数字不完全又は点灯異常	
モニター内部回路故障	モニターを交換し、モード2のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターを製造元に返送してください。
◆ モニター電源ON後、全ての車輪からの信号を受信できず、全タイヤの表示位置に「E1」を表示される	
車内又は付近に電波障害や電波遮断が存在し、受信が妨害されています	車両を移動し、再受信を試みます
センサーとモニターのペアリングミス	モード2のローテーション設定方法でセンサーを再設定します
モニター内部のRF受信回路故障	モニターを交換し、モード2のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターを製造元に返送してください
◆ ある車輪（1輪若しくは2～5輪）から信号を受信できません。該当車輪の表示位置に「E2」が表示される	
車内又は付近に電波障害や電波遮断が存在し、受信が妨害されています	車内で電波を発するものを外します 車両を移動し、再受信を試してください
当車輪のセンサー設定ミス	モード3（単一センサー交換モード）の設定方法で再設定してください
該当車輪のセンサーが故障しています	センサーを交換後、モード3（単一センサー交換モード）の設定方法で再設定してください（交換したセンサーを製造元に返却して下さい）
◆ 設定ボタン又は「P/T」ボタン無反応	
モニターのボタン又は内部回路故障	モニターを交換し、モード2のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターを製造元に返送してください
◆ 圧力（温度）の数値表示位置が不正確	
タイヤの装着位置が不正確	タイヤを正しい位置に装着してください
センサーの装着位置が不正確	モード2のローテーション設定方法でセンサーを再設定します
◆ アラームが鳴らない	
モニター内部回路の故障	モニターを交換し、モード2のローテーション設定方法で再設定後、故障したモニターを製造元へ返送してください

◆ Warranty Policy

商品をお買い上げ頂いた日より１年間、取扱説明書に沿って製品が正しくお使い頂いたにも関わらず発生した製造欠陥には、商品の交換若しくは修理をさせて頂きます。

但し、下記のお買い上げ店様による「お買い上げ記録」が無い場合は保証の対象とはなりません。

■ お買い上げ記録

取付日	年　　　月　　　日
販売店名	
住所	
電話	
ＦＡＸ	
製造番号(ID番号)	

※ TP Checkerは特定小電力工事設計認証取得済商品です。
※ 本製品は予告無く仕様変更を行う場合があります。
※ 販売店様は必ずお買い上げ記録に記入をお願い致します。

製 造 元

Orange Electronic CO.,LTD

2F,No.51,sec. 1, Yatan Rd., Tanzin Township Taichung County 427, Taiwan

Tel:886-4-2534-3636 Fax:886-4-2535-8995

発 売 元

株式会社 アッソ・インターナショナル　Mailto:call-me@tp-checker.jp

東京都新宿区片町６番地 合羽ビル１Ｆ　Tel:03-5919-1582 Fax03-5919-1583